

即興という言語操作性

市山仁美

人に話しかけられたり、文を読んだりしたときを分析すると、そのことばについて、まず状況を判断するであろう。そのとき、人は「そのことばによってあやつられる」といった状態におかれる。同時に、その答えを出すときには、「ことばをあやつる」ことによって、考えを表現するのだと考えてよいだろう。

この資料は、「ことばをあやつること」と「あやつられること」の谷間にあるものを拾い出し、その与えられた「場」をどうとりあげ、どう処理するか、その即興的とも見えるものの正体をみたいと考えた。

ことばにあやつられて出てきた状況の把握状態を、ことばをあやつることによって得た答えから推して、いくつかのパターンがあるか。

を、はつきりとつかみ出して、人間の言語の操作性を探っていきたいのである。

即興性ということ。「興」は、たのしい、おかしいなどを聞き手に感じさせるものである。「たのしい」「おかしい」というものは、状況把握がしつかり出来ており、さらに感情処理の方法がいろいろあることを知り、その中からよりびつかりのものを選び出し得たときに出てくるものであろう。

そのことから考えると、なんとか処理せざるを得ない場面を想定して、そ

の「間」のとり方にどんな種類が出てくるか。

一の問題は選択することなく場を与えられて状況把握から感情処理に移っていく過程を、二の問題では、一つの事実があって、立場をかえることによって、どう変化させ得るか。「比較の中でのおもしろさ」をねらった。

能力されればある程度自由に表現できるものの、一の問題にくらべて、ずっと冷静であることを要求されるのではないか。すると、一つの立場しかとれない↓完全に二つの立場をとり得るもの等、子どもの反応はその能力に応じて相当な差がでてくるものと思われる。

資料はおよその見当で番号と見出しをつけたが、単純→複雑へ

問題一について①②③を例外としてみるならば④以後は感情処理に移っていったものとして一まとめにすることもできるが、子どもの即興性をみる上にはどの種も同じだからといって一まとめにしたのでは、感情の受けとめ、処理の方法の進歩のあとがみにくくなるので一つの要素があればそれに、より複雑なもの加わればそれに、スポットをあてていく形で④以下の項目を作っていた。

資料

「ガチャーン」

父「こらーまたやったな、太郎」

げんこつをふりあげてとんでいく。ふりむいたのは となりのむすこ となりの子「あっおじさん。」

父「

父のげんこつがぶじにさげられるように、「。」の中へ、ちょうどよいせりふを入れなさい。

「次の表をみて、ある中学についての新聞記事をかいてください。」

- ・45年度・中学校野球大会に参加
・高校入学率89%
- ・46年度・中学校音楽コンクール器楽の部参加
・中学校野球大会上位15校内に入る
・よい歯のコンクール参加
- ・47年度・よい歯のコンクール入賞
・中学校音楽コンクール器楽の部参加。県優秀10校に入る
・高校進学率90%をこえる

①この中学について、最高にはめる文をかいてください。見出しもつけて。

見出し「
本文

②①と反対に、てつて的にけなし
た文をかいてください。見出しも
つけて。

見出し「
本文

一では状況把握の状態が似ているもの
をあつめてみた。特に複雑な要素をも
つものをあとにし単純なものを先きに
もってくるようにした。

①事実を事実としてのみつかんだもの。

なんだ、となりの息子か

なんだ太郎がやったんじゃないか
のか。

なんだとなりの子だったのか。また
太郎かと思っちゃったよ。

なんだ太郎かと思つたらとなりのむ
すこだったのでけんこつがしぜんに
さがった。

なんだとなりの子か!!二度とこんな
ことするんじゃないよ、おしおきだ。
おつ、となりのS君じゃないか。君が
やったのか?今度から気をつけない
といけないよ。

なんだ太郎かと思つた。太郎はこの
間もやったから今日こそはおそろ
うと思つたんだ——こんどから気をつ
けてね。

なんだ一郎君か:。やあ、太郎がま

たいたずらをしたのかと思つて:。
気をつけるんだよ。

おまえか。おまえは初めてだからゆ
るすが今度やつたらただじゃおかん
ぞ。いいな今後気をつけるんだぞ。

いいんだ、いいんだ、うちの太郎も
よくやっているんだ。おさらの一まい
や二まいどうってことないよ。

あーとなりの口口ちゃんか、うちの
太郎がよくやるもんだから:。:

あいいちばんいいはちだったのに。
だめじゃあないかそのわつたさらか
ってかえしなさい。わかつたな。

おやとなりのむすこか。じゃあなぐ
るわけにもいかないな。くやしいけ
どがまんしよう。

以上は、となりの息子に出会つたと
いう事実のみ把握したのにすぎない。
特に「なんだとなりの息子か。」と
簡単である。

次の「なんだ太郎がやったんじゃない
なかつたのか」も同じである。
そのあとに「太郎がいたずらしたの
かと思つて気をつけるんだよ」「お
しおきだ」「よくやるもんだから」
はその簡単な文にやゝ説明を加えて
いるにすぎない。この一群を事実を
事実としてつかんだ一つの型とする。

②事実を事実としてつかんだもののその
二(扱い方によっては複雑さももち
得る)

太郎か。また大切なうえきばちまで
わりやがった。何度いったらわかる
んだらうなあ。

どうもまちがえておこつたりして、
どうもすみませんでした。

の二つは強気(前文)弱気(後文)

の両極端のようにみえるが、強気—
まちがいをそのまゝおし通す。弱気—
あやまって通す。どちらも心得て
やつていれば、気まずさを救う一種
として用いられ得る。共にかなりの
状況把握が出来ていることになるの
だが、この資料は、ただ単に結果と
して、そうなただけで、そこまで
考えは及んでいないとみて前の事実
を事実そのまゝに受けとっている①
と同種としたい。

③「かるい」うそ」とうそのうわぬりそ
の一

太郎をみかけなかつたか。太郎がき
み、うちのまどをわつつちやつたんだ
よ。

あつ君だったのか、太郎がまたガラ
スをわつてしまつたんだ。見つけた
ら教えてくれよ。こまつた子だ。

なんだとなりのむすこか。あんまり
うしろすがたが似ていたんでまちが
えてしまつたじゃないか。

この種はののの部分で、本当はとな
りの息子がやったと思つているのだ
が、太郎のせいにして、つまりす

りかえ”を行うことによつてバツの
悪さを救い、さらに、——の部分で
それを正当化するように説明をつけ
ている。三つ目の文はののにあたる
語は略されているものとしてやはり
同種である。

④「うそ」とうそのうわぬり、その二
(弁解的)

なんだとなりの子か。太郎がな、ま
たわつてしまつたんだよ。こまつた
ものだ:。ぶつてやろうとしたがと
なりの子がみているからな—まあこ
ん回だけはゆるしてやろう。

のの部分は③と同種のものである。
ただあとにくる説明が、やゝ弁
解の領域に入りかけているとみる。

つまり、まずいことをやつたという感情
が働いているものとしたい。しかし、他
(となりの息子)に対してまづいとい
う感情を+のエネルギーによつて
補いたいのだが、充分補い得ず”ぶ
つて以下——ゆるしてやろう”と、
たんにつぶやいただけに終つた。

感情把握はできたのだが、それが充
分燃焼できなかったか、表現能力が
不足していたかである。

⑤状況判断に感情が入って

お、太郎をみうしなつた。まったく
にげ足のはやい子だな。まったく困
つたもんだ。でも子どもはあんなも
んだ。しかたがない。家出されたら

大問題になってしまう。しかたがない。ゆるしてやろう。

これも④とみたいが、これは③にあたる部分がまったくなく、いきなり弁解的つぶやきに終始しているところ、前の事実に対してつまらぬ説明をつけずにおいたところが④の文より一段と感情把握がはっきりしているたとみてよいだろう。

だが、しかたがない二回、子どもはあんなもんだ。家出されたら大問題。というように、自分にいきかせていることばがくどく出てくる点、マイナスの感情を短かい文で処理しきれずだらだら書いたという感じを与え、すっきりしない分だけ、まだ感情把握に弱さをみせている。

⑥ “うそをつく”と“すりかえ”の間で

。なんだ君だったのか。おじさん、ちょっと人ちがいしたもんでね ハハ
③のように「人ちがい」ですりかえを行い、「ちょっと」「でねハハハ」で、それぞれ他（となりの息子）に対して迎合している点が特筆されてよいのではないか。はっきりと「人ちがい」なのではなく、すりかえたようなすりかえないようなあいまいさを持って“てれ”“恥かしさ”“ひくつ”などの要素を含んでいる。感情把握が今までの④⑤より高度で

あるとみたい。

⑦ みごとなすりかえと弁解。
“ちがうよ。うちの犬だよ。ほらそこにいるだろ。またほんさいをこわして、ほんとに困る犬さ。”

ちがうよ。で否定し、……でみごとにすりかえと同時にうそをつくことによって“場”を切りぬけ、更に犬についての説明はかなり弁解（前述）として成り立っている。このように何重にも反応し得るほどこの子は、ことばにあやつられて出てきた感情が複雑さを持ちことばをあやつり得る特性をもっていると判断したい。とくにそのうそは、相手の意表をつき、クウの音も出ない状態にし得る完璧さであり、やゝ演出的効果といった要素も着目される。

⑧ 意表をつくとは その一

。やあ君かハハハ窓は元からわれているんだよ。太郎をちょとからかつてやろうと思っただんだハハハハ、
きょうは、エイブリルフルだからね。

ハハハハと笑いとばす演出、意表をつく、あきらかな“うそ”そのあとにくる 1 は弁解として充分通り 2 も弁解の役をはたしているが 1 の方がずっと意表をついていておもしろい。
意表をつくは⑦にも出て来たが、意

表をついておもしろく感じられるのは、感情の新しい分化のしかたを読者に与えるからで、そこから考えても 1 の方が 2 のエイブリルフルの“あたり前さ”をもたず、ずっとおもしろさをもっている。又書いた本人はそれを充分計算に入れているらしい。

⑨ 意表をつくとは その二（迎合）

。えっなんだって。はしつていくうちに私もつばをわったって。これはこまった。それでいったいどのつぼだ。わっこれは大変だ。このつぼは先祖代々わが家につたわる大切なつぼだ。あゝどうしよう。もうもとはもどらないし：あゝ困った、困った。

——の部分は……の部分の説明であるが、これが脚色である。すこしも困っていると思えない困ったである。言ってる方も、聞いている方も、それがわかっていてすましている。といった落語的雰囲気を感じさせる。

……の部分は、そのもとをなしているわけでキーポイントになるわけだが、前述したうそ。それも見えないうそ。演技又はとぼけ。相手に対して迎合する精神、みずからを犯人とすることによって己をいやしめ他（となりの息子）に迎合する。といったものがみられ、感情の複雑性、

感情処理の多様性をみることができ。しかし⑩にくらべ演技をしてしきれない不満のこるのにはなぜか。

⑩ 意表をつくとは その三

。あゝ〇〇君どうしたのですか。あの音はなんでもないんです。

……のところでも意表をつく、それは問題にあった自分のことばの存在を否定することによって始める。

「あの音はなんでもないんです」は同時に④より強い弁解の意をあらわしている。しかしただこれだけではやはりあとになにかなくてはおかしい気がする。せっかくの切り出しに蛇尾に終わった感じで惜しい。

⑪ 意表をつく その四（迎合）

。おじさんこのごろおかしいヨ。自分でやったくせに。

⑨をもっと明瞭にした迎合、卑下の精神をあらわし、本人もそれを充分心得ているとみる。⑥には卑屈なものがなく⑪にはそれがあるというのもおもしろい。男女差か、陰と陽の感がある。

⑫ “はずかしさ”か

。あはしたないところをみせてすみません。「はしたない」の語のつかい方。近ごろはやった「はずかしながら」の語の使い方と同じか、とすれば、まじめだけどぶざけているといったものをこの一語に含めたのか。

女の子の記述だから、女の子の普段の生活の中で「はずかしいこと」の代表的いいまわし、(氣どってふざけながら言うとき使う)として用いたのか。論究しきれず。

⑬その他 せりふにならない。

。となりの子にこんなところをみせてはいけな。

以上二十九名

二では新聞記事の「ほめる」「けなす」のつながりの中から、言語操作の特性を探ってみた。やはり単純なものから複雑な要素のあるものへと追っていきたい。

①ほめることしかできないもの。

○さん よい歯をとりあげて、「みんな：：とってもきれい」と一部分をとってほめた。

○さん 「あなたはいいいことばかりあったのですね。」

文そのまま、感にたえた単純だが暖か味のあるほめことば、けなすなんてとんでもないーといった感じ。

②感動なし

○さん だいたい入賞をやっとほめているといった感じ。けなすときも：：することを二度使い命令調。どちらもあまり感情の動きを出していない。

③事実を羅列し文末だけ変化させたもの

○さん 事実の羅列。にもなり、成績をおさめ、に入賞、にも優秀な成績をおさめたの強めのことばを用いてほめている。けなすとき、野球をとりあげ、あつとうされている。そのせいか進学率はおおく、スポーツは全然だめ、ガリベットのせい。とスポーツの不振をなげき、ガリベンは、成績のよさのうらがえしとして使われている。

○君 事実をていねいに羅列したあと、このかつやくぶりはちよつとまねできませんねと結びでほめ、けなすときも、羅列のたびにしかならない、しただけで、しかのびなかったとつけ、せいせきは大きくてのびないと結んだ。

○さん 事実の羅列の間に、こえるほどになりました、だけでなく、優秀校に入ったりとつないだ。同じように羅列だが、前述の○君より子供っぽい熱っぽさを感じさせる。しかし、ほめことばのみでけなすことは出来なかった。
になる、堂々、に入るなどの

○

ことばで結んでいる。わずかに堂々だけがほめことば、たんだんとしている。けなすときもいやいや、初めて、やつと、どうにか、すれすれを語尾につけている。同じような方法だが、ほめにくらべて、けなす方に語いが多く使われている。

優秀な成績をおさめた、連続で表彰された、：：にのぼると部分的にほめことばを用い、けなすときも、最下位、0.10%とさかんにけなしているが、一部事実とちがう点がある。(いそいで書いたと本人はいつているが、そのためのとりちがえか)しかし、文の途中にそれほめことば、けなすことばをさしはさんでいるので、書き方としてこの項に入れた。

④事実をまとめて(けなす方に工夫して)

。事実をまとめて、一年一年につれてよく参加、年々多くなつてよい、と明瞭なほめ方、けなすとき、よいことばかり書いてほめてもらおうとしていると、他はどうした、という意味か。けなす事実がないので裏がえしたのか。や

、皮肉にもとれるけなし方である。前者と同じようなほめ方、しだいにふえ、じょうぶな歯の人が多くてとってもよいである。けなすとき、一位や二位じゃなければ、せめて三位まではとけなす方に本音がありそう。

。事実をやゝまとめて並べている。
：ふえ：：入賞もふえ：：をこえるまでできていると③に近いほめ方。けなすとき、よく参加しているが同じものばかりだ、一位ということもなくと力点がけなす方にきている。

。資料をならべ各方面で大変優秀な成績をおさめているとほめ、けなすときは進学率をほめそれにつれて毎年参加していた野球大会には出場しなかった勉強だけでなく、体も：：と欠点を拾いだしていた。

⑤未来へ向けて

。歯をとりあげ、参加し、入賞し、もつとよくなるでしよう、と小さい範囲ではあるが未来へあげようということによって効果をあげようとしている。けなすとき、野球をとりあげ、参加したが、次に参加しなかった、と時間の経過をもち出し、未来へ向って、当然努力すべきものを怠ったと入賞しなければ次にがんばる希望ももてるのに

文で痛烈に批判している。

。進学率をとりあげ、いよいよなる中学、来年はどのような進学率のぞめるか、と未来まで推して手ばなしのほめよう、けなす方は、野球をとりあげたが、参加した結果はどうした、とか、まけたのかとか資料の中から学校をけなすのではなく、資料をけなししている。それほど手ばなしのほめようか。

。事実をならべこの三年間いろいろな大会に参加、進学率については、このぶんでいくともっと高まるであろう、と未来へつないだほめ方けなすときも羅列であるが、参加したもののなかなかに賞できないもつとつよくなれないものかと未来へもつていっている。

⑥ 疑い

。こんなに高いのはほかにはないだろうと進学率だけを問題にしているけなすときよい歯、音楽コンクールに入ったりしているがこれだけが特質であろう。ほかのは、けがするところがあるのでは、とかくれた事実があるのではないかという疑い。平たくいえば難くせをつけているという感じがする。この子の進学に対する関心の深さと、それ以外のものに対する不自信、生活の経験からその中にかくされ

た部分のあることを心にのこしているのか（うらみまではないか）

。羅列ではあるのだがたたみこむ調子のよさでかゝれている。ひじょうによい、：率も高く：をこえているといった語でほめている。けなすとき「参加」をとりあげ、鼻にかけすぎ、もつと多く参加と暗に「参加」の批判か、いいことはっかり書いて、事件はなかったのか、それだけしかないのか、と書かれていないことに疑いをもっている。

⑨ 条件を自らもうけて

。野球については、とても強い学校だけが数多く参加の二つの条件を与えて強めたうえで、15校内に入ることはとても優秀。と結んでほめている。

またけなすときは、条件を89%という数値を用い、しかも高校といってもいろいろあり程度の低い学校もある、とその数値の価値を低めようと工夫している。

ほめ、けなしまったく同一の手法である。

。事実をまとめ、年ごとに成績があがってきている。とほめ、その理由を、努力や協力があつたからである。と多数の手がらとする条件

をつけて、けなすときこの多数を問題にし、ある一定の人しか出れないときめつけ、いい高校に入ってもそれでいい人間になるとはかざらないといつも一部ではなく一般の人に目を向けている。

⑦ うらみと思わせるもの。

。なにをやってもよい成績で、たのもし、と全面的に認めたかっこうでほめている。反面、けなすとき、このことが頭から離れないとみえ、いまのうち優秀でも、他の学校がおいついてくるからいまに負けてしまふ、と事実からの批判ができず、とんでもない（資料にない）理由をつけてピントのはずれたものをもってきたので、うらんでいるような印象を与える。

。事実一つ一つに、よくそこまでま

わった、よほどの苦勞と練習が実ったからだ、よほどの努力があるにちがいない、と非常な熱心さでほめている。そしてけなすときはその裏返し、としたってよいことを認め、その学校以上のものをもつてきて、よくそんなにえばれるな、：：ならえばれるかもしれぬが、よくそんなにぬけぬけと、えばつていいのか、と「えばれる」を重ねたため、うらんでいる、といったかりをつけている。といった

感じがする。よすぎるという意識があるときむりにけなすという文になるのだろうか。この二名のようにピントが合わない感じがくり返されるとうらんでいるといったものになるという例えとなる。

⑧ ?

。めいよあることだし、さんかすることにいざがある。と事実をいちいちのべずいきなりほめている。けなすとき、進学したって勉強がきらいなら金がむだになる、とか、いかなくても、総理大臣になれるかもしれない、とか、進学をとりあげてとくに熱心にけなししている。この子はスポーツなどをよしとし、進学がきらいなのか、べんきょうがきらいなのか、かなりこだわった書き方をしている。

⑨ 一途なほめ方

。良いことが重っている、学校長もニコニコ。「しらががへったわい。」などといっている。高校進学もふえている。来年はもつと賞などももらえることまちがいなしと未来へも拡げ、一つも事実を羅列することなくほめている点が、手ばなしの気分が充分出ている。ニコニコとか「しらががへったわい。」とか、来年はもつと：：ま

ちがいなし。などは語調を変える
と、皮肉にもなりかねないが、こ
の子はごく素直に一途にほめてい
るのである。その子がけなすとき
進学については、へんな学校に入
った人が多いということです。大
会については、そういう人はかり
ではない、と事実の一つ一つこた
えていて、うらの方を読んでいこ
うという姿勢はあるが、ほめ方を
裏返した皮肉のようなものを期待
したが、けなす方はほめにくらべ
平凡におわった。

⑩ 事実には無駄なく常識的

。：も強くて、：もうまくて、：多
くて、なんにでも参加するよい学
校と全面的にほめあげ、けなすこ
き、入賞はしないし、ほかの部も
さかんではない、と当然の批判で
ある。

⑪ ⑨に準ずる意表をつくほめ方

。資料の説明ぬきで、とにかくいい
「はいるならここ」といいたいが、
決まった地域の人しかはいれない
のがさんねん。とすごいほめよう
けなすとき進学率をとりあげ、公
立高校ではなくて私立の高校かも
しれないと痛烈ではあるが、ほめ
るときに全面的であったものが、
けなすときは、部分になったのは、
ほめる方が状況をよくつかんでい

るということだろうか。それにし
てもかなり意表をつく表現ができ
ているとみたい。

⑫ けなす方に力点をもって

。羅烈の中に年々高く、二年目にし
て入賞、向上心にもえた、などの
ことばでほめている。けなすとき
10名の子どもが進学をあきらめて
いるのは悲しい。一部の人たちだ
けではつまらないと少数の部分、
影の部分にスポットをあてている
この子にとっては、ほめは本音で
なく、あとの部分に力点があるこ
とがはっきりと感じられる。

。進学とその他のことをまとめてい
るが、進学者にはいい学校といえ
るだろうの語は、この子がひかえ
目な子だからこれでほめことばと
しているのだから、やゝ批判的
なおいを感じる。そしてけなす
とき、型にはまった教育、コンク
ールについて、毎年おなじような
ことをくり返している、変化がな
い、と痛烈であることから、やは
り前文は、ヒハンのにおいの方が
強いのではないかと考える。

⑬ 拡散思考型

。資料を並べたて最後に、模範的学
校であるとほめ、けなすときは、
それをうけて、そのように優れて
いるから、このままでは頭が体よ

り大きくなり、重くなり、はげあ
がってしまうのではなからうか、
とにかく今のうちに手を打つ必要
があるだろう、と資料から推して
考えた。拡散思考型である。観点
はみごとに一つ。

⑭ みごとな、活殺自在

。などにも：：の方も優秀であり、
などもまことに優れた、とべたほ
めにほめておいて、けなすとき、
いきなり、ほんとうにこの学校は
なにをやってもだめな学校だ、と
切りつけ、ただ参加しているだけ
でめったに賞をとれないとだめお
しし、ととても三年に一回ぐらい
入賞するだけで、そんな時は、も
う学校中大さわざになるといった
だめな学校。と徹底的にけなしつ
けている。今までの児童も、ほ
めすぎればそれに、けなす方に力
点があればそれに、気持がひきず
られていた例ばかりであったが、
この子は、それぞれをみごとに処
理している、みごとに豹変ぶり。

考
察

問題一の方がやゝとりつきやすさ
を持つとみえ、わりあい自由に書い
ている。

①、②が例外であるほかは、多少①
③的な尾をのこしているとしても、

“うそ”からはじまってるそを説明
しはじめそれが弁解となりつぶやき
ぼやき、ひくつ、てれ、演技など資料
の中で説明したように多くのものが
でてきている。ただ⑤までは一つ一
つの要素からみるとりあげるべき
ものはあるがどれも部分であるが⑥
をはさんで⑦⑧⑨⑩あたりは、も
う部分ではなく全体として問題一
の意図を充分満足させていてみごと
である。

問題二については前にもかいたよう
に冷静さを要求されるが、厳密にい
えば最後⑭の豹変のみが問題の意図
を満足させることができたのであつ
て以下は不充分であつたといえよう
しかし部分でみるならば見出しを
つけたようなよさがあつたというこ
とがいえる。とくに“うらみ”の存
在は一つの立場のありようとして意
識にのこしておきたいことの一つで
ある。

それにしても、“二つの立場を同時
にとる”ことのむずかしさ。問一で
あれだけ活躍した児童のほとんどが
一つの立場にひきずられはなれるこ
とが出来ずにいること。頭がいいと
自他ともに思っている児童が批判の
方によりひきずられていること。こ
のクラスのほとんどがすなおに長所
を長所とみて二重構造をもつことを

みぬけないことを、「素直」としてよろこぶべきか。

問一で⑦⑧をかけた子、問二で⑭をかけた子、について考えてみるならば⑦では「すりかえと弁解」といった方法で虚構の世界に入っている。虚構についていうならば、感情を忠実に処理するにはものを二重にみようとすると姿勢・演技することによって感情の世界を作ろうとする、つまり虚構となる。彼は、感情の処理のためにどうしても虚構が必要であるということとを充分しているとみえる。とくに事実を一つも出さないとこゝろでは、事実には忠実であればあるほど感情を正しく表わすことのできないこと。事実を把握し、しかも事実から離れたとき感情を正しく伝えることができる、ということを示している。これは問二⑭の子の場合でも、ほめけなす、それぞれ足をひっぱられずに独立してはめ、けなすことが出来たということでも事実を把握し、事実から離れたとき：正しく伝え得ることを証明しているこゝろあたりが最終の段階かとも思われる。

。実験対象

大正小学校六年二十九名

(横浜・大正小・教諭)

児童の言語生態研究趣意

国語教育の実践と研究は、日々ゆるがせにできない永遠の基礎的課題であります。近來、言語活動を重視し言語能力の増進を要される時運に従い、一見、国語教育の実践と研究は活発さを加えたかに見えますが、国語教育は技能的となり、読み、書き、話し聞く三領域に分割された言語生活形態の学習を専らとする風潮さえ生んで参りました。

われわれは成育しつつある子どもの言語生態を、正確に見届けることを、何よりの国語教育の基礎に据え、そこから出発すべきであります。遅ればせながら、感情・思考及び意識の発達とともにある子どものことばの実態を、調査、研究して、子どもの側からの発言を世に問いたいと思ひます。

思えば、子どもの言語生態とも言ふべき基礎資料を得ることなしに、国語教育の目的と方法が論じられすぎました。また、われわれ現場人が、それらの基礎資料をどれほど整えて子どもに接していたでありましょう。国語教育の目的と方法及び実践の確立に資すべき、最初の条件であつたと思うのであります。われわれは相互に連絡協力して、この調査、研究を進め、小冊子といえども、発達途上における子どもの心とことばとの成長並びにその明暗を正確に写しとつた貴重な資料を収集して、広く斯界に頒布することにしたしました。

昭和四十三年四月

児童の言語生態研究 同人 一 同

主宰 玉川大学教授 上原 輝 男

顧問 玉川大学教授 日名子 太郎

入会の御案内と投稿規定

本誌は、幼稚園・小学校の現場人が現場でつくる雑誌ですから、幼・小の先生方ならどなたでも正会員となります。

現場での御報告・御研究をお寄せ下さい。四〇〇字詰二十五枚以内。ただし、子ども中心のものであるのが本誌の特徴です。採否は編集部にお任せ願ひます。

ほかに研究会その他を計画致します。

本誌購読者の方々(一年分まとめ)を会友になって頂きますが、原稿掲載は正会員に限ります。

入会御希望の方は

- ① 芳 名
- ② 御 住 所
- ③ 勤 務 先
- ④ 担当 学年
- ⑤ 本年度使用の国語教科書使用出版社名

を必ずお書き下さり、本年度会費(千円)を添えてお申し込み下さい。

(事務局)